



愛知長久手ロータリークラブ

2012~2013

WEEKLY



例会日=毎週火曜日 PM12:30 例会場=長久手市まちづくりセンター

会長 安田茂樹 幹事 小谷恒夫 会報 吉田濱一

Email : a.nagakuterc@aurora.ocn.ne.jp

事務局

TEL:0561-64-5446

FAX:0561-64-5459



奉仕を通じて 平和を



本日 第 492 回 例会 2013 年 2 月 19 日 (火 曜 日) 第 485 号

<本日のプログラム> Today's Program

点鐘

<ロータリーソング> 「我らの生業」

卓話講師 リンナイ(株)

取締役会長

内藤明人様

前 回 第 491 回 例会 2013 年 2 月 9 日 (土 曜 日) 記 録

RI第2760地区 東尾張分区 2012-2013年度 INTERCITY

ホストクラブ:名古屋城北ロータリークラブ

13:00~

会場:名古屋マリオットアソシアホテル

<ロータリーソング> 「君が代」「奉仕の理想」「四つのテスト」

ソングリーダー : 小塚美知子さん

<出席報告>

会員総数 22名 (免除会員1名)

出席:全員登録

前々回補正出席率 95.4%

【第一部式典】

<開会のことば> IM実行委員長 筒井 俊秋さん

2012~2013年度 第2760地区東尾張分区のIMを開催することができましたこと、心からお礼申し上げます。ご来賓の方をはじめ、東尾張分区11クラブの皆様にご多数ご出席頂きまして本当に有難うございます。今年度の田中RI会長のテーマは「奉仕を通じて平和を」です。このテーマのもと地区ロータリアン一同が相集い、親睦と友好を深め、諸問題に対して真摯な討論を重ね、各クラブのすばらしい活動報告を聞き、話す場です。本日は基調講演を永年、世界の平和に尽力された元国連事務次長の明石康様に平和に対するご意見を伺い、これからのロータリー活動について考えたいと思います。第三部には本日参加者全員により、平和に関する意見発表を計画しています。実りあるIMになりますようお願いをしまして開会の言葉といたします。

<歓迎のことば> 名古屋城北ロータリークラブ会長 穂積 良治さん

皆さんこんにちは、名古屋城北ロータリークラブの本年度会長をさせていただきます穂積良治です。どうぞよろしくお願いいたします。2012-2013年度東尾張分区IM開催に際し、区内11ロータリークラブ全会員の登録を頂き心より感謝申し上げます。

名古屋城北ロータリークラブは会員32名の小さなクラブですが、この一年間全員でこの準備に携わってまいりました。まず友愛の広場では立食ではありますが、おいしいフランス料理を食べながら懇親を深めて頂きました。基調講演では今年度RI会長田中作次氏のテーマである「平和」に真正面から取り組んで明石康元国連事務次長を講師に依頼して世界平和に関するお話を頂き、次のフォーラムでは身近な平和の問題「いじめ」を取り上げて、皆様の意見をどしどし出していただいで討論したいと思います。

大会中多々不行き届きの点があるかと思いますが、ロータリーの友情をもってお許しください。このIMがロータリアンにとって心に残る、実り多いミーティングになることを祈念いたしまして歓迎の挨拶とさせていただきます。

<RI第2760地区東尾張分区ガバナー補佐IM挨拶> 小原 久和さん(名古屋城北RC)

皆様こんにちは。ひさしぶりにお目にかかりますが、お元気でしょうか。今日はIMです。近隣の数クラブが集まって開催されるロータリーの会合です。全員の会合の目的は知識を広め、親睦を広め、ロータリー情報を伝え、奉仕の理想を勉強するために開催されるミーティングです。今回は名古屋一城北RCの主催です。

昨年、東尾張分区11ロータリーを訪問させていただきました。各クラブとも素晴らしいクラブ計画書のもと、活発な活動を行っておられました。今年度も後半に入りました。年も辰年から巳年に入りましたが、「竜頭蛇尾」になることの無いようにしっかりと計画を遂行してください。

また地区からは、地区内交流、東日本大震災の被災高校生支援、会員増強、ロータリー財団等への寄付をお願いしております。それに対して御理解、御協力をいただきありがとうございます。お礼申し上げます。地区の会員の皆様からはいろいろな意見、ご発言をいただいております。ロータリーも世の中の変化と共に当然変わらなければいけない点もあり得るでしょう。御意見をどうぞお寄せ下さい。

今日は田中RI会長のテーマ「奉仕を通じての平和」ということで、元国連事務次長の明石康様をお招きしました。ロータリーには「国法の順守」という大前提があります。ロータリーの奉仕は戦争が起こらないように、貧困・教育・医療等に奉仕し、平和を維持することが大きな目的でもあります。長年、世界の平和に尽くされた明石様のお話をお聞きし、新たな思い、考えとの出会いがあることを期待し、勉強したいと思います。以上挨拶にさせていただきます。

【第二部基調講演】

テーマ：「平和とは」

講演者：元国連事務次長 明石 康様

東京大学卒、ヴァージニア大学大学院修了。1957年国連入り。広報や軍事担当の国連事務次長、カンボジアや旧ユーゴスラビア担当の事務象徵特別代表歴任。1997年末、人道問題担当事務次長を最後に退官。現在、(公財)国際文化会館理事長、スリランカ平和構築及び復旧・復興担当日本政府代表、(公財)ジョイセフ(家族計画国際協力財団)会長等。

主な著書に『国際連合―軌跡と展望』(岩波新書)、

『戦争と平和の谷間で一国境を越えた群像』(岩波書店)、『「独裁者」との交渉術』(集英社新書)など。

皆様こんにちは。只今ご親切なご紹介を頂きました明石でございます。私はかねがねロータリークラブが世界的な繋がりのもとに展開して来られた国際協力とか、いろいろ素晴らしい活動を高く評価しております。国際的な奨学資金を提供してそれを利用して外国で留学し立派な成果をあげ国際的な活動をしていられる方も沢山いることは皆様ご承知の通りです。今日は上段から、「平和とは」をテーマについて、50年余り、いろいろ考え、悩まれ、時には喜び、時には苦しみながら格闘して来ましたが私の率直な考えを述べさせて頂いて一時間の話の後でご質問なりご意見などをお聴きし、私なりにお答え申し上げるということにしたいと思います。皆様からの鋭い質問の刃でぐさりと私をやっつけて頂くことを楽しみにしています。まず平和とは何でしょうか？一言で言えば戦争の無い状態、暴力が振るわれない状態、国と国との関係において武力が使われない状態だと思います。武力とは何かと言いますと、国家による物理的、組織的な力の行使であります。平和とは、消極的に言いますと、そういう暴力が行われない、存在しない状態ですが、私は単に戦争が無いという消極的なものではなく、もっと実りのあるものでなければ本物ではないと思います。日本のような平和な国では平和は空気のようなものです。国連の仕事でいろいろ紛争地に行って来ましたが、1994年から2年間に、バルカン半島の旧ユーゴスラビアに国連事務総長特別代表として赴任しましたが、国連の非力を嫌という程感じさせられました。ボスニアの首都サラエボに次ぐモスタールという街では、イスラム系、セルビア系、クロアチア系の、3つの民族が三つ巴に戦争を戦っておりまして。地下室あるいは穴倉に押し込められていた人たちが国連の人間が来てくれたと真っ黒な顔を涙一杯にして喜んでくれました。そういう状況を経験しますと日々の嫌なことや疲れを忘れてしまい、世のため何かしていると強く感じるがありました。

今、我々は21世紀に入って13年目です。20世紀は科学技術が進歩し、人類の生活が飛躍的に向上したのに、世界戦争が2度もあって大変に血なまぐさい世紀でした。第1次世界大戦では1千万人近い死者と、2千万人近い負傷者も出ました。19世紀までは軍人の死傷者が多数だったのが、20世紀は非戦闘員の民衆の比率が多くなり、子どもや女性が犠牲になったのです。戦争後は米ソの冷戦状態が続いたものの、1989年にはいつ核戦争になるかもしれないという緊張が終わり、平和な時代が来ると喜んだものです。私は1992年1月に国連安保理事会の特別会合で、その時日本は安保理の非常任理事国でしたが、当時の宮沢総理が英語で「冷戦の終わった時代における国連の役割」について希望を持って演説をされたのを覚えております。しかし90年代も本当の平和ではなかったです。国と国の戦争は少なくなったけれど一国の中の民族と民族、宗教の違いによる紛争が増えて来ました。そういうわけで国連も国と国ではなく一国の中の民族、宗教紛争を仲裁するという国連憲章に明記されていない役割が加わり新しい時代に当面させられたのです。こうした国連に求められる拡大した役割が2000年の「ミレニアム宣言」にも盛り込まれています。90年代の中頃に国連は3つの重大局面に直面しました。そのうちの2つはアフリカにおける紛争です。ソマリアが無政府状態に陥って市民が餓死に直面するという人道支援の役割を担ったのです。それからルワンダ紛争です。2割のツチ族と8割のフツ族との争いで、フツ族によるツチ族の大量虐殺問題です。国連の平和維持隊(PKO)も派遣されて現地にはいたのですが、フツ族が何十万のツチ族を組織的に大量虐殺して国連の手に負えない状態でした。私はこの紛争が終わった翌年にルワンダに行きました。安全な教会でさえも襲うという憎悪による攻撃に慄然としました。世界はこのアフリカの紛争には関心が薄く、国連を最も必要とするアフリカの国に対し国連は何も手が打てないと恨みを込めてルワンダの人々は語っていました。もう一つは先程の旧ユーゴスラビアの紛争です。ボスニアではイスラム教徒が44%、セルビア清教徒が33%、クロアチア系カトリックが17%いて、これら三つ巴の紛争でした。国と国との戦争も悲惨であるけれど一国の中の紛争はもっと悲惨です。昨日まではお隣同士で仲良くしていたのが憎しみ出すと止めども無く、関係が悪くなって、これは人間性の深淵を覗いたようで本当に悲惨です。首都サラエボでは戦争前は民族や宗教の違う同志での



結婚が6割もあったと聞きました。若者にとって宗教や民族の違いは障害ではなかったのです。しかし戦争が;

日本国憲法の第9条は、国際紛争を解決する手段としては、武力行使はしない。これはまさに国連憲章に明記されていることですが、自衛のための戦争はしないとは言っていないのです。第2項ではそのために陸空海軍を持たない。国としての交戦権も持たないと言っています。つまり侵略戦争はしないということです。どの国も侵略戦争ではなく自衛のための戦争だという訳で、自衛という言葉は戦争を正当化するために使われて拡大解釈して使われる危険があります。旧ユーゴスラビア紛争の原因を私はいろいろ調べてみました。始まったのは1991年でクロアチアの小さな村での衝突です。2つの立場が対立して、黒澤明の映画「羅生門」の原作のように、1つの事件に4人が4つの違う物語を語っているのです。小さな衝突が大きくなって、針小棒大となって、ある意味で恐怖心、殺さなければ殺されてしまうという強迫観念から殺し合ってしまうという、手をつけられない状態になるのです。今、尖閣諸島を巡る日本と中国の対立が毎日報道されていますが、これも両国が欲しない事態に、つまり小さな衝突が大きくなって戦争にならないとも限らないという恐ろしさがあります。偶発的な問題から本格的な戦争になってしまう。食い止めるために関係国と一緒に危機管理を真剣に実施する必要があると思うのです。お互いの間にホットラインを作っておいて衝突が起きたら何が起きたか、何をしようとしているのかと確かめ合う、それが非常に大事です。私は民間人の一人として危機管理のメカニズムを作ることが、どんな紛争であっても大切だと強調しています。日本でも中国でも、民族主義、ナショナリズムが強くなっている感じがあります。私は旧ユーゴスラビアでいろんな指導者に会って3つの違うナショナリストを分析しました。①セルビア人の指導者で情緒的なナショナリスト。自分の民族だけが良くて他はダメだとはっきり自分と他者を裁断して、自分は良いが、相手が悪いと決め付ける極端な、狂信的な感じです。②クロアチアの大統領で民族が独立し独り立ちするには戦争をやるのが許容されるという、政治的ナショナリストです。③ユーゴスラビア全体の大統領だったセルビア人の大統領ですが、他の2人より頭がいいけれどセルビア人、クロアチア系、ボスニア系の民族を押さえつけ、支配下に置こうという魂胆を潜めた政治家です。この4月にオランダのハーグにある戦争犯罪を裁く国連が作った特別裁判所に行って証言するようにと要請を受けています。私はそこで正直に述べるつもりです。とにかく国連はどちらが良いか悪いかを決めるの

た。

わが国も若者を含めて内向きになっていて外に出たがらないと言われますが、若者の中にはある程度リスクをとっても外に出て行こうとする人たちは2割か3割はいると思います。そうしたグローバルな人材育成は民主党政権から強調されています。グローバル人材育成には3つの要素が必要です。①外国語コミュニケーション能力。②ある程度リスクを犯してもチャレンジする前向きの精神、積極性。③異文化理解、自分を理解してもらいたいけれど相手の文化や歴史も尊重する謙虚な態度。この3つが強調されています。私は、外国語能力は3番目で、第1は積極的に難しいことにチャレンジしていく前向き精神、第2がお互いを尊重するフェアな精神で言葉は3番目だと考えます。外国語の勉強は必要ですが、仕事の上で理解し合いたい、心を開いて話したいという友人が出来ると言葉はついてくるものです。学校を出たら外国語で仕事をしなければならんと自分を追い込んでいけば言葉はついてくると信じています。日本訛りを気にする必要はありません。私は国連で40年仕事をしましたが、国連ではインド人もお国訛りで堂々と英語を話していました。訛りは国民のアイデンティティ、勲章であり、日本訛りの英語でいいから外国人の相手の目を見て話せば、98%は理解し合えます。国と国との関係も民族の関係も大切ですが、国を超えて仕事をし、語り合う世代においては個人と個人の間柄を築き上げることがとても大事であります。尖閣諸島問題以来、日本人は中国の態度に失望していますが、中国各地での暴動や反日デモとか、日本企業の店を襲ったりして、中国政府も制御できないようです。政府と政府の関係以上に民間同士、特に若者同士で関係を築いていくことが大事です。お互いに観光客を送り込む、美しい景色、美味しいものだけでなく、人間的付き合いを片言の中国語、片言の日本語、片言の英語で胸襟を開き合うことが大切です。国連の加盟国はみな近代国家のはずですから、国家である以上自衛権は持っています。今の日本ではややこしい議論が行われています。日本も個別的自衛権を持ち、行使も出来ますが、集団的自衛権は持っているけれど行使してはいけないというのが内閣法制局の見解です。私はこの解釈には少し疑問を持っています。戦前の日本はアジアにおける暴れ者であったからそうだという人もいますが、戦後の日本は新しい国、平和国家、民主国家として生まれ変わっているはずですから。日本も中国も21世紀の近代国家としてお互いの国情を理解し、お互いの主権を尊重し、お互いの文化、風習を認識しながら、より幅広い経済、金融、環境とかその他の問題に取り組み、またス

最後に締めくくりとしまして、戦後日本が辿ってきた道は正しかったと私は思います。戦後日本は平和主義をかざし国際的にも協力して国連主義を掲げて実行して来ました。これからも民主主義社会としてきちんと行動していくと思います。基本的に変えることはないと思いますが、日本国憲法にもあるように戦後、アメリカによってやや理想主義に走った面もあると思います。まだまだ国際社会は国と国との争いが絶えないし、それほど相手を信頼してもいいのかという疑問を持ったとしても不思議ではありません。ある程度、相手が信頼に値するかどうかをお互いに確かめ合いながら、一步一步慎重に進んでいく冷静な姿勢が必要だと思います。理想主義が全くダメだという気はありません。しかし、現実主義も日本人はきちんと持つべきです。知恵は必要です。お互いの軍備を誤解してそれに備える一心で軍備拡張をしては軍拡競争になりかねません。そういうものが1930年代のアジアでもヨーロッパでもあったわけです。そうならないように歯止めをどうやって作るかということは本当に易しいことではありません。結論としては憲法に基づいて祈るだけでは本物の平和は来ないのです。行動しなければダメです。最小限の備えはしなくてはなりません。より良い世界、より平和な世界にするために必要な人的投資や経済協力、文化面での協力、漫画とかアニメを始めとする日本が生んだソフトパワーの魅力も世界中に知ってもらい、多面的な平和に対するアプローチが必要だと思います。東日本大震災から2年が経ちましたが、震災に立ち向かった日本人の行動、態度は世界の賞賛の的になりました。宮城県のある会社の専務が、中国研修生を助けて自分は行方不明になったという話に中国人も深く感銘を受けました。スリランカなどの貧しい国からもインド洋の津波の際に受けた日本の援助に感謝し、援助がありました。このように日本が世界のためにいろいろやってきたことが震災の時に還って来ました。その一方、福島原発の汚染水を太平洋にたれ流して避難を浴びました。大変残念なことです。我々に要請されるのは日本らしいきちんとした価値観、理想に基づいて冷静でバランスのとれたお付き合いを世界中の国とすることです。過大な夢を持ち過ぎず、かといって理想を棄てることなく、一步一步前向きに進むことです。日本には悲観論者が多いですけれども前向きな態度をとらないと日本も世界も良くなることはありません。「平和とは」という皆さんからの大事な設問に対して私は回りくどい複雑なお答えをし、私の言わんとすることは舌足らずでうまく伝わらなかったかもしれません。率直にご質問なり、ご意見を頂ければ幸いです。皆さんご清聴

【第三部フォーラム】

質疑応答／平和に関するロータリアンの意見発表

【第四部次期ガバナー補佐並びに時期ホストクラブ紹介】

＜次期東尾張分区ガバナー補佐挨拶＞ 丹羽 司一さん

次期東尾張分区ガバナー補佐を務めさせていただきます、愛知長久手RCの丹羽司一でございます。本日は多くの東尾張分区11RCの会員の皆様と、さらには各地区の役員の皆様をご来賓としてお迎えし、盛大にIMを開催されました名古屋城北RCにお祝い申し上げます。IMの主旨は、ロータリー精神の理解を高めつつ、会員相互の親睦を深めることにあります。皆様の貴重な時間を意義あるものとするためにも、大いに語り合い、実り多いミーティングとなりますようお願いしております。

さて、昨年末、政権交代が起き、安倍首相が再登板することになりました。安倍首相の唱える景気対策＝アベノミクスが、今後どのような成果をもたらすのか、皆様も注視されていることでしょう。日本経済の長期に渡る停滞は、企業の倒産や整理縮小を引き起こし、それは職業人の集まりであるロータリークラブにも少なからぬ影響を与えました。例えば会員数の伸び悩み、ロータリー基金の縮小などです。なかでも会員数の伸び悩みは、ロータリーの精神が広がっていくことを阻むものですから、憂慮されるべき問題です。では、ロータリーの輪を広げていくにはどうしたら良いのでしょうか。それは、ロータリークラブ会員の皆様が、こうした活動の場を通じてロータリーの魅力を実感されること、ひいてはその魅力を様々な場面で語ることが、ロータリーの輪を広げていく源になるのだと思います。そのためにも、ご来席の皆様には本日このIMを大いに盛り上げていただき、お帰りの際には「やはりロータリーはすばらしいな」「良い時間を過ごしたな」と感じていただけることを期待しつつ、その声を周りの多くの方々に伝えてくださるようお願いいたします。以後、活発なロータリー活動を展開させていくためにも東尾張分区11RCの会員の皆様のご協力ご支援をお願いしまして就任の挨拶とさせていただきます。有難うございました。

＜次期ホストクラブ会長エレクト挨拶＞ 山田 文明さん

皆様 こんにちは！只今、紹介を頂きました。次期インターシティ・ミーティングのホストを務めます。愛知長久手ロータリークラブ、会長エレクトの山田文明です。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。本年度ホストクラブであられます名古屋城北ロータリークラブ、穂積会長、筒井実行委員長を始め、名古屋城北クラブ会員の皆様方には、大変すばらしい本日の設営には、感激いたしました。心から感謝申し上げます。今後とも、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。私達、愛知長久手ロータリークラブは、2002年に創立、昨年度10周年を迎えさせて頂きました。現在、会員数22名 内女性会員5名 40才代会員5名と平均年齢が若いクラブでもあります。まだまだ未熟なクラブではありますが本日、ご出席頂きました先輩クラブの皆様方から、ご指導、ご鞭撻を頂きながら、次期東尾張分区ガバナー補佐 丹羽司一君を始め、安田茂樹実行委員長を中心に、22名のクラブ会員全員で、微力ではありますが、力を合わせて、ホストを務めていく所存ですので、よろしくお願い致します。

2013～2014年度東尾張分区インターシティ ミーティングは、2014年2月15日土曜日名古屋ウェスティン ナゴヤキャッスルホテルにて執り行いますので、皆様方には、本日同様 多数のご出席を頂きます様、お願い申し上げます。以上を持ちまして、挨拶とお願いを申し上げます。ありがとうございました。



2月26日(火)	3月5日(火)	3月12日(火)	3月19日(火)
卓話:長久手市議会 議長 伊藤祐司様 (トヨタ博物館)	卓話:トヨタ博物館 館長 杉浦孝彦様 (トヨタ博物館)	卓話:大島昭夫さん (トヨタ博物館)	卓話:PETS報告 次年度会長・幹事 (トヨタ博物館)